

アサヒビール工場跡地について

現在の状況と、私の考えをご報告します。

跡地問題の経過と、私の考え

今村新市長は就任後、跡地に関連して

24時間・365日受入可能な小児救急体制の整備・分娩可能な産科の強化等、本市の医療環境向上のため県・市立病院の統合を目指す
 そのための候補地は市有地に2ヶ所存在
 跡地への移転候補施設とされていた体育館・消防署は現地での建替が可能

等の考えを示しました。これによって従来、市が跡地購入を必要としてきた主な根拠は否定されました。しかしながら、その後も議会の多数派が跡地の取得を求め続けた結果、市は「土地所有者との協議が整った場合、県・市統合病院の建設候補地の一つとして土地を購入する(資料参照)」という提案を示し、議会も全会一致で賛成しました。これによって、「市長の私案」という面が強かった「県・市統合病院の実現を目指す」という方向が市全体の方針となりました。これは

市内医療環境の向上という観点から、大きな成果だと言えます。また市は土地所有者との協議に際して、以下の条件を示しています。

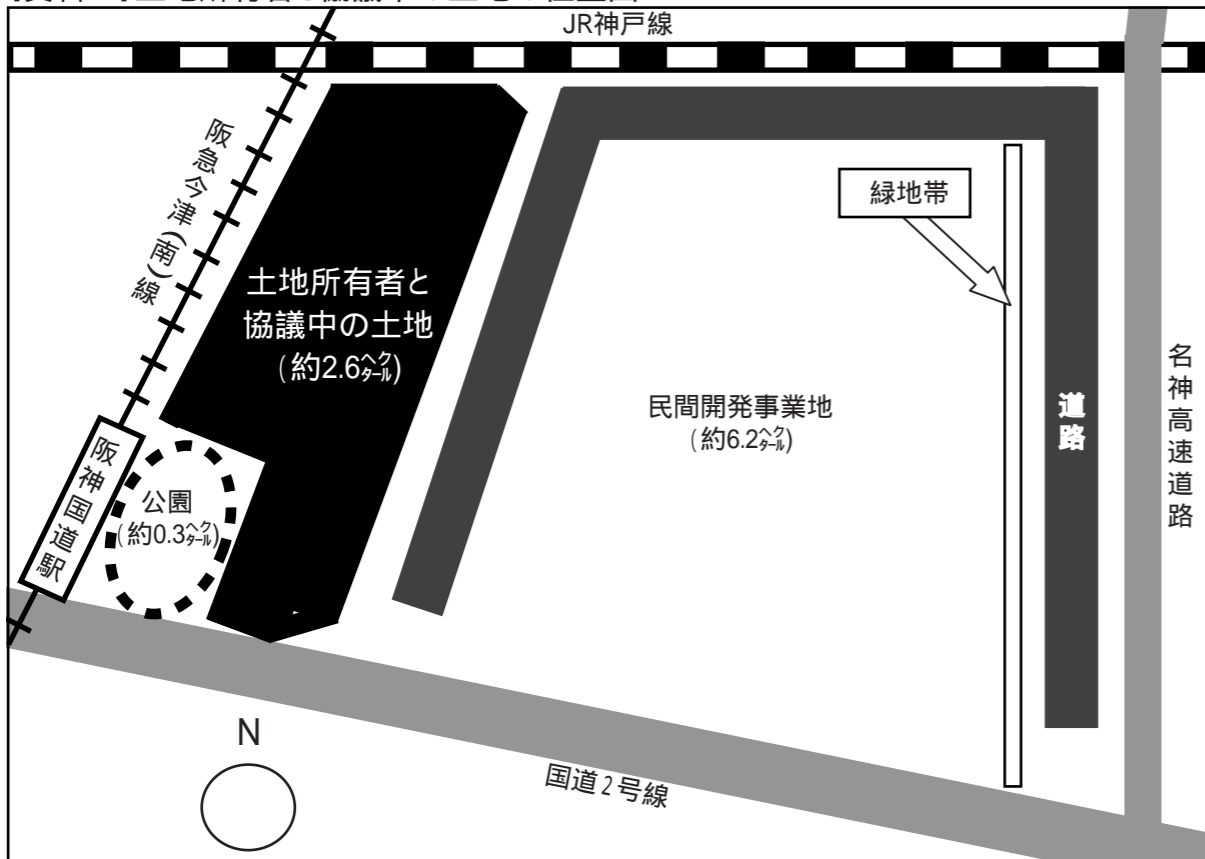
跡地を統合病院以外で使用することはない
 統合病院が実現しない場合、もしくは実現しても場所が跡地以外に決定した場合、跡地は現在の土地所有者が買い戻す

私は、こうした状況を踏まえ、

提示された条件は土地所有者にとって厳しい内容であり、交渉が成立するか自体、不透明
 統合病院が実現した場合の建設地は、土地購入費が不要であり、より安価に建設可能な市有地が選ばれる可能性が高い
 仮に市が一旦、跡地を取得しても、最終的には土地所有者が買い戻す可能性が高い

と考えています。市が条件を厳守した上で、跡地以外の土地での統合病院建設を実現できるよう、指摘・提案を続けてまいります。

【資料】土地所有者と協議中の土地の位置図



議会での質疑のご報告

環境学習都市宣言に相応しいまちづくりのために

市が先頭に立って、「資源やエネルギーを大切にした循環型都市」実現に向けた取組みを進めるべきです！

現状の問題点

本市は平成15年に全国初の環境学習都市宣言を行いました。市は、宣言の中で「私たちは、くらしと社会を見直し、資源やエネルギーを大切にしたい循環型都市を築きます」と謳っています。しかしながら現実には

計画に掲げた太陽光発電電力量の達成は難しい状況(資料参照)

公共施設への太陽光発電設備の設置が進んでおらず、市の熱意も低い(資料参照)

等、宣言にふさわしい取組みは進んでいません。

市が先頭に立って、取り組むべきです！

現在、多くの自治体において保有する土地・施設等を利用した太陽光発電設備の整備が進められています。とりわけ先進的な自治体で行われている以下の取組みは興味深い内容です。

市が利用していない土地、公共施設の屋根・屋上、貯水池等を民間事業者に貸し出す

【資料】市内の太陽光発電電力量

	市内の太陽光発電電力量
平成22年度(実績)	6,252MWh/年
平成25年度(実績)	18,128MWh/年
平成32年度(目標)	59,346MWh/年

H22～H32の10年間で約9.5倍ならH25実績はH22の約3.5倍となるべきだが実際は約2.9倍どまり。また今後、「固定価格買取制度での買取価格下落」等の要因があり、普及速度の低下も予想される。

【資料】市内公共施設における太陽光発電設備の整備状況(2013年度末時点)

施設名	規模(kW)
津門中央公園	6
瓦木北保育所	0.3
甲山自然学習館	2.2
動物管理センター	3
ソーラー式街路アプローチ灯	36.3
山口センター	10
津門小学校	3
浜脇小学校	3
高木小学校	3
甲子園浜小学校	3
用海小学校	3
夙川小学校	40
合計	113

夙川小学校では40kWの発電設備を設置している。他の小学校でもより大規模な設備を整備できたはずだが???

一般的な家庭用太陽光電池の発電量は3.3kW/戸。西宮市の公共施設全体における太陽光発電量は113kWであり、一般住戸わずか34戸分に留まる。